

[CASE 09]

はんざわ ちひろ
半澤 千裕さん

酒田市消防団 女性分団

憧れが現実 できることが増えていく楽しさ



普段は市内の企業で事務の仕事をしている半澤さん。彼女は幼い頃から出初式などで見ていた“はしご乗り”の乗り手になるという夢を消防団で叶えた一人です。

「以前の職場に消防団の団長をされていた方がいて、『乗ってみねが?』のお誘いに『やってみたいです!』と即答しました。もともと体を動かすことが好きで、消防団が身近な環境で育ってきて、以前からはしご乗り憧れを抱いていたんです」

入団から2カ月後には、出初式で大勢の前ではしご乗りを披露。その際にも恐怖より楽しさの方が勝っていたと半澤さんは振り返ります。

「はしごのてっぺんは信号機と同じくらい高いんですよ。そこで技を決めて、観客の皆さんがワーッと盛り上がり。これは他では味わえない経験だと思います。私が幼い頃に憧れの目で見ていたように、はしご乗りの姿が次世代の消防団員に届けば嬉しいです」

新たな技の習得など、乗り手としてできる事が増えれば増えるほどに強まる思い。半澤さんの挑戦はこれからも続いています。

Q1 入団して良かったと思うのは どんな時ですか?

普段の生活だけでは知り合えなかった、地域の方に顔を覚えてもらえたことです。消防団活動をしていると、人とのつながりが横にも縦にも広がっていくように思います。地域ぐるみでお互いに支えあう、そういうコミュニティで家族みんなが安心して暮らせているので、入団して良かったと思います。

Q2 仕事・家庭との両立は大変ですか?

週に何度か練習する時期もありますが、1年間ずっとではないので苦になりません。私の“はしご乗り”を息子に「かっこいい!」と言ってもらいたいですし、将来消防団に入りたいと思ってもらえたらもっと素敵だと思います。仕事にも生活にも、消防団活動で出会う方に良い刺激ももらっています。



普段とは違う環境で、普段は接することの無い方との活動は経験値が上がると思います!



2

1. 春季演習での一コマ。はしごは10人以上で支えます

2. 酒田市では「酒田市寒鯨まつり」に合わせて出初式を開催

3. 初舞台となった平成31年出初式でもきれいに技を決めました

3